

東チベット・イゴンツアンポー流域の山と谷 二〇〇八年春

東北大学山の会会員 今井順一

はじめに

東北大学山岳部・山の会が、チベット高原の盟主 ニエンチェンタンラ(七一六二m)に初登頂してから二十二年が過ぎた。一九八六年、学術交流団の一員として憧れのチベットの地を訪れ、ラサ、シガツェと進み、カツオーラからチヨモランマの勇姿を拝んだことを昨日のことにように思い出す。

昨秋、山の会の仲間と雲南省の麗江からラサまで車で東チベットを旅行した。ラウーからボミの間で見ることができたのは、紅葉した木々の上にそそり立つ新雪をまとった岩峰群。いずれも標高五〇〇〇mを超え、モンブラン、マッターホルン、アイガーといった欧州アルプスの山々、カナダのバンフ、ジャスパーの山々、アメリカのヨセミテの岩壁などと比較しても遜色のないすばらしい山々が手付かずで眠っていた。途中で散策したミドワイ谷から見たゲムソング峰(六四五〇m)とその東に続く山々。ボミから北にのびるポトイツアンポーを辿っていったユリの村から見たヒマラヤ巒をまとった六〇〇〇mを超

える山々。そのいずれもが未踏峰である。ラサから西に広がる荒涼とした西チベットと対照的に、東チベットの山々は緑豊かな森林に囲まれていた。

チベット高原の盟主 ニエンチェンタンラからのびるニエンチェンタンラ山脈は、多くの六〇〇〇mを超える未踏峰と氷河を抱えている。この山域に入った外国隊は英国のキングドン・ウオード、日本山岳会会員・一ツ橋大学山岳部OBの中村保さん等数えるほどしかなく、ほとんどの山々が手付かずで、なかにはその写真すらない山がまだ沢山残っている。

今回は、一九八六年の東北大学学術調査隊の植物班が訪れた易貢のお茶農園から更にイゴンツアンポーをさかのぼり、川の北側及び南側の氷河をたどり、六五〇〇mを超えるいくつかの未踏峰の登路を探ることを目的にした計画を作成し、昨年暮れチベット登山協会に、トレッキングの許可を申請し、二月下旬、出発間際に正式の入域許可を取得出来た。

残念ながらイゴンツアンポーのゴルジュの核心部、忠玉まであと二日半の所で、今井がなんでもない登山道で右足首を骨折

してしまい、キングドン・ウオード以来七〇年振りのイゴンツアンポー下流部の完全廻行が出来ず計画の後半部を遂行できなかった。しかしながら、三月中旬までの好天を生かして、川の北側に位置するジアンブ氷河の未踏峰六六九二m峰及び未踏峰六〇五〇m峰を撮影。リカの部落から川の南側に位置するロンブー部落に外国人としては初めて立ち入り、シンドボマ谷の未踏峰ツェブロン六六四八mと未踏峰クルトブ六四一八m、ユモ谷の未踏峰ジャゴン五九九六m、タンブー谷の未踏峰ムイベイ六一六八mの登路を探ることが出来た。リカ部落から本流をさかのぼったヤルロンの先の峠からは、対岸の未踏の六〇〇〇m峰をま近に見ることが出来た。この他にも川沿いの五〇〇〇mから六〇〇〇mクラスのたくさんの未踏峰の写真を撮影できた。また、バ・ロウー・ロンブーでは一般のチベットの人々の家の写真も撮影することが出来た。

ちょうど三月十四日にチベットのラサで騒乱があったが、山奥では平和そのもの。働きもので素朴な住民、道で会ってもはにかむ少女達。電気も電話もなく、粗末な木造の小屋で、決して豊かとはいえない暮らしでも楽しく暮らしている人々。彼らは、鈍一本で松の太木を切り倒し、丸木橋を架け、丸太に刻み目を入れて階段を作る等して危険な道も、安全な道に変えてしまふ。松の樹皮をそいで炊きつけにし、マッチ一本でたちどこ

ろに焚き火を起こすまさに森の民であった。現在、イゴンからバケまでの道路工事が進行中で、バの先まで車で入ることができる。二年もすればバケまで開通し、この地域の状況は一変するであろう。平和な村の暮らしがいつまでも続くことを願うものである。

三月のこの地域は予想以上に暖かく、最低気温もテントの中とはいえ二°Cであり日中は十°Cを越える。晴れていれば、二十°C近くまで上がる。雨も霧雨程度で日本のような大雨は降らなかった。降雪の日もあったが、二cm程積もる程度であった。特に帰路では、三月下旬とはいえ、桜、桃、杏、シャクナゲが一斉に満開となり、一面に菜の花畑が広がり、東チベットの春を満喫できた。

CTMA(チベット登山協会)のスタッフであるリエゾンオフィサーのダワ・ツェリンさん四十五歳は、経験豊かで温厚な紳士であり、当初の計画に無かったジアンブ谷の展望台への寄り道、ロンブー部落からユモ谷の偵察を許可してくれた。馬方・ポーターとの交渉でもその力量を遺憾なく発揮してくれた。なお、彼にはコックのヌルブ・ツェリンさんが同行した。

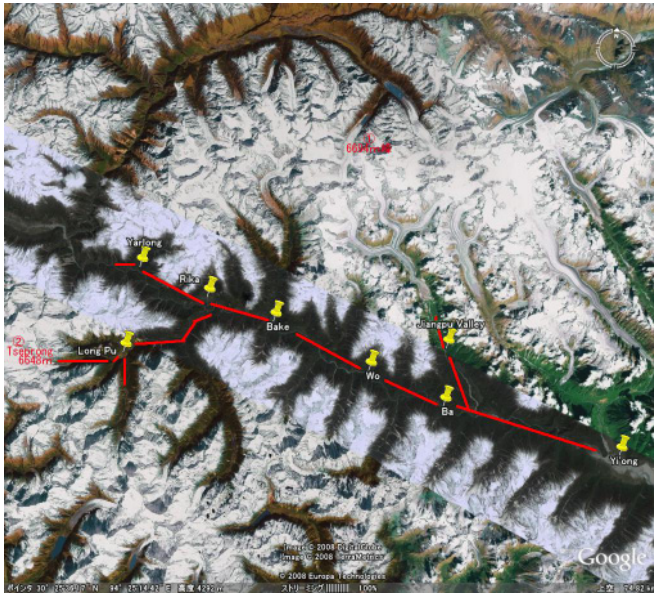
CTMAの渉外担当のヤン・ドレン部長からは、許可取得の概略の説明を受け、ムサ副部長、ツェドロン女史には、許可の取得の実務でお世話になった。

なお、同行してくれたパートナーは、東北大学山の会会員の田尻研治君と山岳部現役、医学部五年生の岡田広司君である。
日程

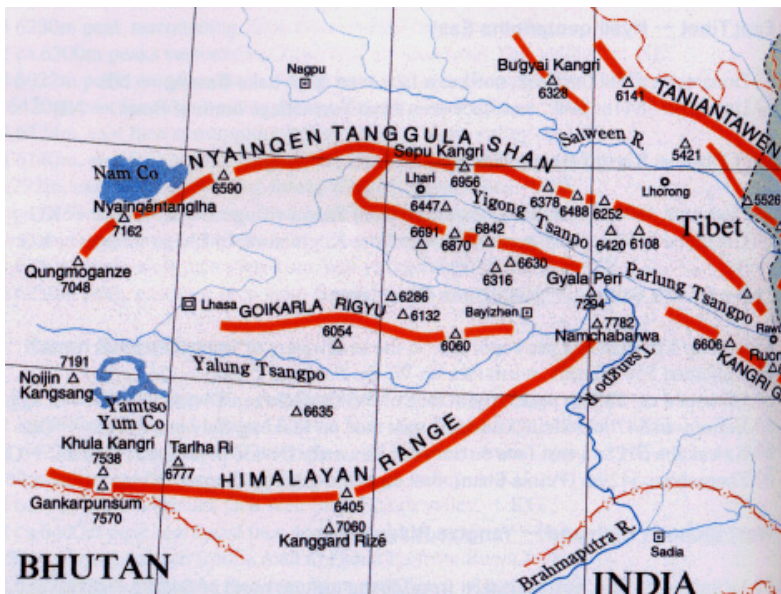
二月二十七日水曜日 先発隊として今井日本発北京經由成都
二月二十八日木曜日 成都よりラサ C T M A との打ち合わせ
二月二十九日金曜日 三月三日 ラサで食料・装備の買出し
三月〇四日火曜日 田尻君・岡田君ラサ到着
三月〇五日水曜日 ラサより一 (四輪駆動車二台)
三月〇六日木曜日 八一よりイゴン (四輪駆動車二台)
三月〇七日金曜日 イゴンよりバ (トラック一台)
三月〇八日土曜日 バよりジアンブ谷 (馬四頭・馬方二名)
三月〇九日水曜日 ジアンブ谷往復
三月一〇日火曜日 テント場よりバ (馬四頭・馬方二名)
三月十一日火曜日 バよりウオ (馬八頭・馬方三名)
三月十二日水曜日 ウオよりバケ (馬八頭・馬方三名)
三月十三日木曜日 バケよりリカ (馬八頭・馬方三名)
三月十四日金曜日 リカより呂松の先 (馬四頭・馬方二名)
三月十五日土曜日 呂松の先よりロンブー部落 (馬四・馬方二名)
三月十六日水曜日 シンドボマ谷往復
三月十七日水曜日 ユモ谷往復

三月十八日火曜日 休養
三月十九日水曜日 ロンブー部落よりリカ (馬五頭・馬方三名)
三月二〇日木曜日 リカより放牧地 (ポーター十八名)
三月二十一日金曜日 放牧地より峠下テント場 (ポーター十八名) 午後ルート工作
三月二十二日土曜日 テント場より峠より今井骨折より峠よりテント場

三月二十三日水曜日 テント場より放牧地 (ポーター十九名)
三月二十四日木曜日 放牧地よりリカ (ポーター十九名)
三月二十五日火曜日 リカよりバケ (馬九・馬方四・ポーター四)
三月二十六日水曜日 バケよりバ (馬九・馬方四・ポーター四)
三月二十七日木曜日 バよりイゴン (トラック一台)
三月二十八日金曜日 イゴンより八一 (四輪駆動車二台)
三月二十九日土曜日 八一 飛行機待ち
三月三十日水曜日 八一より林芝空港より成都
三月三十一日水曜日 成都より北京より関空又は成田



イゴンツアンポー流域概念図



全体概念図



①ジアンプ氷河の未踏峰6694m峰南壁



②ツェプロン東壁6648m